

緩効性肥料

肥料成分がゆっくりと溶出・分解してくるので、根やけが起こりにくくかつ肥効が持続する特徴があり、環境負荷の削減の上からも、有効と考えられている。

管理型処分場

遮水シートなどにより、埋立地からの浸出液が地下水や公共用水域を汚染しないように措置した処分場。

気候変動枠組条約

地球温暖化を防止するために、温室効果ガスの濃度の安定化を達成することを目的として、1992年5月に採択され、1994年3月に発効している。加盟国は、国ごとに温暖化対策の計画を策定し、実施していくことになる。

魚毒性C類

農薬を魚毒性の弱い方から、A、B、B-s、C、D（水質汚濁性農薬）に分類したとき、魚毒性の強い方から二つ目の分類。

グリーン購入

商品やサービスを購入する際に、必要性をよく考えた上で、品質や価格だけでなく、環境への負荷ができるだけ少ないものを選ぶ行動。

グリーン購入ふくいネット

県内においてグリーン購入の取組みの輪を広げることを目的として、平成13年7月に設立された団体。

グリーン・ツーリズム

農山漁村の自然や文化に触れながら、農林漁業体験や地元の人々との交流を通して心身をリフレッシュしようという体験型の観光。

グローバルスタンダード

世界中どこでも使える基準・規格・ルールのことを言い、ISOなどの国際機関が定めた標準規格を指す場合と、ある商品や技術が世界中に普及して事実上の国際基準になっている場合とがある。

建設副産物対策連絡協議会

建設副産物の利用促進を図るため、平成9年10月、県・国土交通省・民間の公共事業関係機関で組織された。

光化学オキシダント

大気中の窒素酸化物や炭化水素などが、強い紫外線を受け、光化学反応を起こして生成するオゾンやPAN（パーオキシアセチルナイトレート）などの総称であり、眼のチカチカやのどの痛みなどを引き起こすと言われている。

こどもエコクラブ

子どもたちが地域において主体的に環境学習や環境保全活動に取り組み、将来にわたり環境保全へ高い意識を持つことを支援するため、環境省が小・中学生を対象に参加を呼びかけている環境活動クラブ。

さ行

作物残留性農薬

適用病害虫の範囲および使用方法を遵守しないで使用される場合に、その使用に係る農作物等の汚染が生じ、かつ、その汚染に係る農作物等の利用が原因となって人畜に被害を生ずるおそれがある種類の農薬。

里地里山の二次的自然環境

雄木林や溜池、棚田、水路などがモザイク状に存在する自然環境。森林の下草刈り、水路や溜池の管理など伝統的な農林業活動により維持されてきたが、近年、このような環境が改変されたり、従来の管理がなされなくなりつつある。このため、メダカ、ゲンゴロウなどかつて身近な存在だった生物の生息生育環境が悪化し、絶滅のおそれが生じている。

酸性雨

雨は本来、空気中の二酸化炭素を吸収することにより弱酸性を呈する（理論値はpH5.6）が、化石燃料等の燃焼に伴い発生する硫酸酸化物や窒素酸化物を取り込むことによって、より強い酸性に変化した雨のこと。

産業廃棄物

製品の製造などの事業活動に伴って工場等から排出される廃棄物のうち、燃え殻、汚泥、廃油など19種類のことを指す。

産業廃棄物税

産業廃棄物を排出する事業者などに対し課税する仕組み。

COD（化学的酸素要求量）

水中の有機物を酸化剤で化学的に分解した際に消費される酸素量で、湖沼、海域の有機汚濁を測る代表的な指標である。CODが大きいほど、汚濁が進んでいることになる。

自然再生型公共事業

生物の生息空間として河川が持っている価値を再評価し、多様な自然を復元するための河川工事や湿地の復元事業などを「自然再生型公共事業」と言う。

循環型社会

循環型社会形成推進基本法において、「製品等が廃棄物等となることが抑制され、並びに製品等が循環資源となった場合においてはこれについて適正に循環的な利用が行われることが促進され、及び循環的な利用が行われない循環資源については、適正な処分が確保され、もって天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される社会」と定義されている。

新エネルギー

石油・石炭・天然ガス・原子力・水力等のエネルギー源に対して、太陽エネルギー・風力エネルギー・燃料電池など今後の研究開発や導入が期待されるエネルギーのこと。

水源かん養機能

森林などが有する雨水を吸収して水源を保ち、あわせて河川の流量を調節する機能。

水質汚濁性農業

相当広範囲な地域においてまとめて使用されるとき、水産動植物の被害が発生し、かつ、その被害が著しいものとなるおそれがある、または、公共用水域の水質の汚濁が生じ、その水の利用が原因となって人畜に被害が生じるおそれがあるなどの農業。

生物多様性

地球上の生物の多様さと生育環境の多様さを言う。生態系は多様な生物が生息するほど健全で、安定しているといえる。

絶滅危惧種

絶滅の危険性の程度を評価した分類で、危険性の高いものから順に「絶滅危惧ⅠA類」、「絶滅危惧ⅠB類」、「絶滅危惧Ⅱ類」、「準絶滅危惧」となっている。

戦略的環境アセスメント

事業の実施段階より上位（または早期）の段階、つまり、政策や計画の意思形成段階において、関連する社会的側面や経済的側面も考慮に入れて環境面への配慮を幅広く検討し、環境配慮に関する情報を意志形成に組み込もうとする仕組み。

側条施肥田植

肥料を施さずに代かきした後に、機械で田植えしていく際に、苗のすぐそばに肥料を施していく方法。

た 行

ダイオキシン類

ポリ塩化ジベンゾ-p-ジオキシン（PCDD）75種、ポリ塩化ジベンゾフラン（PCDF）135種、コプラナPCB12種の化合物の総称であり、このうちには、催奇形性や発ガン性などが指摘されている物質がある。

大気汚染テレメータシステム

大気汚染物質の濃度を自動測定器で連続測定したデータを無線等で送信し、データを集中的に管理するシステム。

耐容一日摂取量（TDI）

慢性毒性が懸念される化学物質について、人が生涯にわたり摂取しても健康に有害な影響が現れないと判断される一日当たり体重一キログラム当たりの摂取量。

多自然型川づくり

河川が本来有している多様な動植物の生息、生育環境や景観などの自然環境を保全あるいは創出し、可能な限り自然環境に近い川づくりを行うこと。

地球温暖化

地球の温度は、太陽からの日射エネルギーと、地球から放出される熱放射とのバランスによって定まるが、人間の活動によって、赤外線を吸収する「温室効果ガス」の大気中濃度の増加により、気温が上昇する現象を言う。